

CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)LIBTH菊陽町_156	階数	地上8階、地下0階
建設地	熊本県菊池郡菊陽町大字原水1391	構造	RC造
用途地域等	工業	平均居住人員	252 人
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年1月 予定	評価の実施日	2023年2月17日
敷地面積	1,711 m ²	作成者	鳥生
建築面積	671 m ²	確認日	2023年2月17日
延床面積	4,101 m ²	確認者	鳥生

2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

環境品質 Q: 42
環境負荷 L: 40
BEE = 1.0

BEE = 1.0

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

排出率: 63%

ライフサイクルCO₂排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	★★★★★
30%超60%以下	★★★★
60%超80%以下	★★★
80%超100%以下	★★
100%超	★

3 熊本県重点評価結果

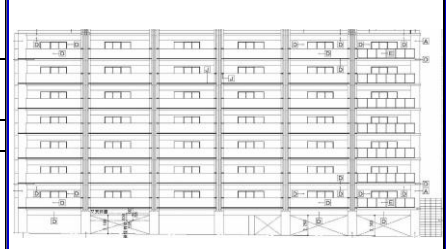
重点事項総合評価		評価点												
		72												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	86.3	<p>■ 熊本県重点評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>判定値 (評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td></td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td></td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※評価点は、100点以上が推奨です。</p>	判定値 (評価点)	ランク表示	100点以上		80点以上100点未満		60点以上80点未満		40点以上60点未満		40点未満	
判定値 (評価点)	ランク表示													
100点以上														
80点以上100点未満														
60点以上80点未満														
40点以上60点未満														
40点未満														
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	67.5													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	55.0													
【重点事項4】 循環型社会の実現	65.2													

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)LIBTH菊陽町_156	階数	地上8階、地下0階
建設地	熊本県菊池郡菊陽町大字原水1391	構造	RC造
用途地域等	工業	平均居住人員	252 人
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年1月 予定	評価の実施日	2023年2月17日
敷地面積	1,711 m ²	作成者	鳥生
建築面積	671 m ²	確認日	2023年2月17日
延床面積	4,101 m ²	確認者	鳥生



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE ≦ 1.0

環境品質 G (0-100) vs 環境負荷 L (0-100)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 63%
③上記+②以外の 63%
④上記+ 63%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 2.6

Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.7

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.0

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.3

LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.8

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.8

LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.4

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価 評価点 = 72

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進	重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現
86.3	#####
重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全	重点事項4: 循環型社会の実現
55.0	65.2

重点事項の評価(レーダーチャート)

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ライフサイクルCO₂とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
(仮称)LIBTH菊陽町_156

評価点が3超の項目

水色セル欄に数値やコメントを記入

⇒Q1～Q3シートやLR1～LR3シートにおける採点の根拠に倣って、要旨を記入してください

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.6
Q1 室内環境							0.40		-	3.0
1 音環境						1.0	0.15	1.0	1.00	1.0
1.1 室内騒音レベル						1.0	0.50	1.0	0.50	
1.2 遮音						1.0	0.50	1.0	0.50	
1 開口部遮音性能						1.0	1.00	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能						-	-	1.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	1.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	1.0	0.20	
1.3 吸音						-	-	-	-	
2 温熱環境						1.0	0.35	4.0	1.00	3.4
2.1 室温制御						1.0	1.00	4.0	1.00	
1 室温		等級4相当				-	-	-	-	
2 外皮性能						1.0	1.00	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						-	-	-	-	
2.3 空調方式						-	-	-	-	
3 光・視環境						2.4	0.25	3.7	1.00	3.4
3.1 屋光利用						1.8	0.43	3.4	0.50	
1 屋光率		【住居】6.6%				1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口						-	-	1.0	0.30	
3 屋光利用設備						3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						-	-	4.0	0.50	
1 屋光制御		【住居】庇とカーテンを組み合わせで制御				-	-	4.0	1.00	
3.3 照度						3.0	0.21	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.36	-	-	
4 空気質環境						3.6	0.25	3.3	1.00	3.4
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		全的に(70%以上)F☆☆☆☆を採用				4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						3.0	0.40	2.3	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能						-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理						-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視						-	-	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.7
1 機能性						2.4	0.40	2.6	1.00	2.5
1.1 機能性・使いやすさ						3.0	0.40	3.0	0.60	
1 広さ・収納性						-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応						-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						1.0	0.30	2.0	0.40	
1 広さ感・景観						-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画						1.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理						3.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						3.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						2.8	0.30	-	-	2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						2.7	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						2.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管・給湯管 C以上／排水管 B				4.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						2.6	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						2.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.0	0.30	3.0	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり							
	1 階高のゆとり		-	-	3.0	0.50	
	2 空間の形状・自由さ		-	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	1.00			
	1 空調配管の更新性		-	-			
	2 給排水管の更新性		1.0	0.25			
	3 電気配線の更新性	電線管により、仕上げ材を痛めることなく電気配線の更新が可能	5.0	0.13			
	4 通信配線の更新性	電線管により、仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新が可能	5.0	0.13			
	5 設備機器の更新性		3.0	0.25			
	6 バックアップスペースの確保		3.0	0.25			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.0
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性							3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制		等級4相当	4.0	0.20	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.89	4.2	0.50	-	-	4.2
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価						
	4.1 モニタリング						
	4.2 運用管理体制						
	集合住宅の評価		3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.8
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
	1.1 節水		1.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60	-	-	2.7
	2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	・軽鉄の使用により、躯体と仕上げ材が容易に分別可能	4.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
	3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
	1 消火剤		-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0.01未満かつ、GWP(100年値)が50未満	4.0	1.00	-	-	
	3 冷媒		-	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率が参照値に対して63%	4.4	0.33	-	-	4.4
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
	2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1 騒音		3.0	1.00	-	-	
	2 振動		-	-	-	-	
	3 悪臭		-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制				-	-	
	3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
	2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

熊本県重点評価結果 スコアシート ※手動入力は不要		実施設計段階
建物名称	(仮称)LIBTH菊陽町_156	

■評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル：CASBEE熊本<<新築>>2017年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		72
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)	スコア	重み 係数				
① 温室効果ガス排出量削減の推進				86.3	0.40	34.52
Q1-2.1.2	外皮性能	3.5	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	4.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.0	0.16			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.21			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.2	0.32			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.11			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.11			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				67.5	0.20	13.50
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	3.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				55	0.20	11.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	1.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				65.2	0.20	13.04
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	2.7	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

■ 環境関連の配慮事項

(仮称)LIBTH菊陽町_156

印刷:モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	・断熱性能等級4相当	
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・居間の窓は、積極的に昼光を採り入れる(昼光率6.6%) ・内装材は、全面的にF☆☆☆☆の建材を使用 	
Q2 サービス性能	・電気・通信配線は、電線管を使用し、仕上材を痛めることなく更新修繕ができる	
Q3 室外環境 (敷地内)	・奥行のあるバルコニーは、屋外と屋内を結ぶ豊かな中間領域として活用できる	
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・断熱性能等級4 ・BEI=0.89 	
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・軽鉄の使用により、躯体と仕上げ材が容易に分別可能 ・ODP=0かつ、低GWPの発泡剤を用いた断熱材を使用 	
LR3 敷地外環境	・駐輪・駐車スペースを確保	
その他		